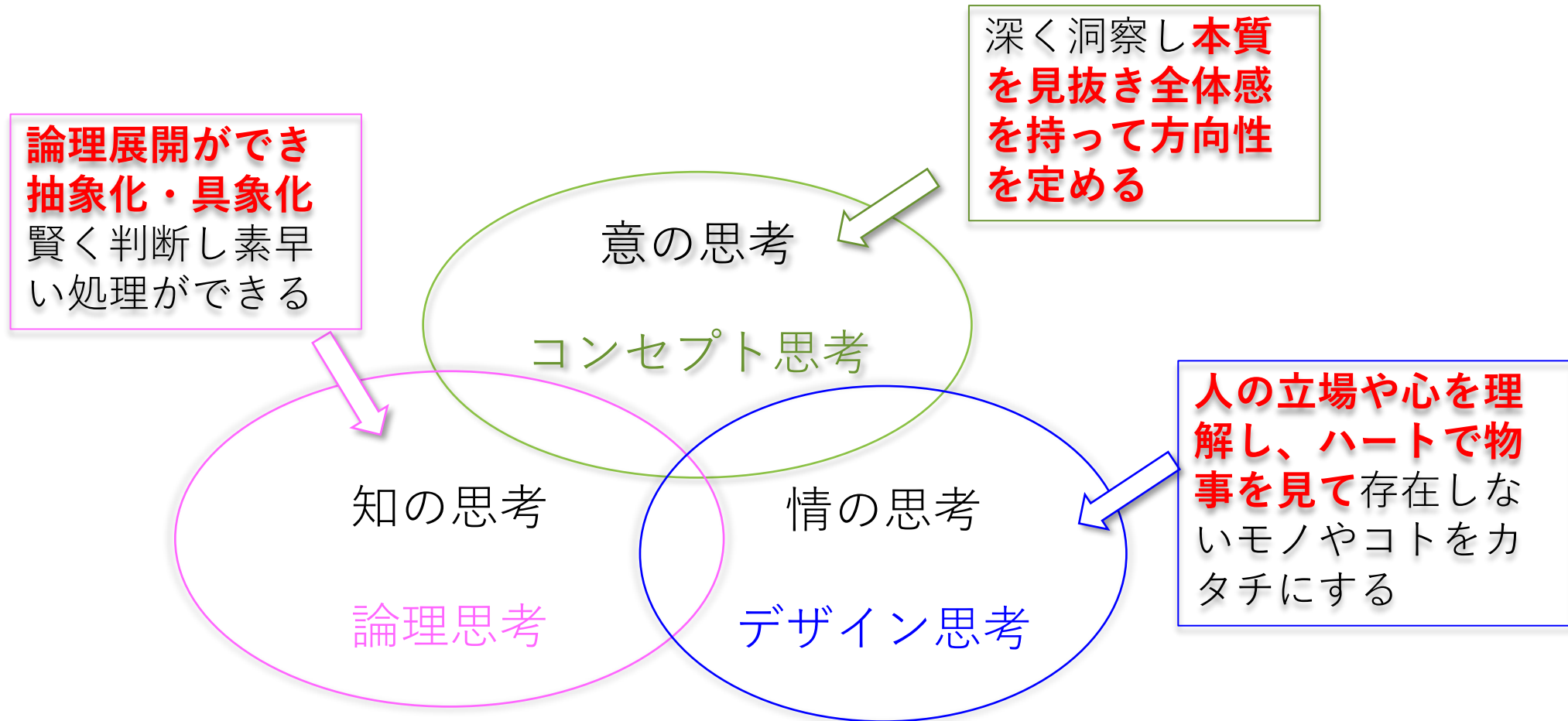


# AITCパネル

萩本 順三

株式会社 匠 Business Place  
代表取締役 会長, Methodologist



狙いが明確で、実現までの説明が分かりやすいが、視野が狭く、あまり魅力を感じない

狙い自体には魅力を感じるが、視野が狭く、アイデアに具現化できない

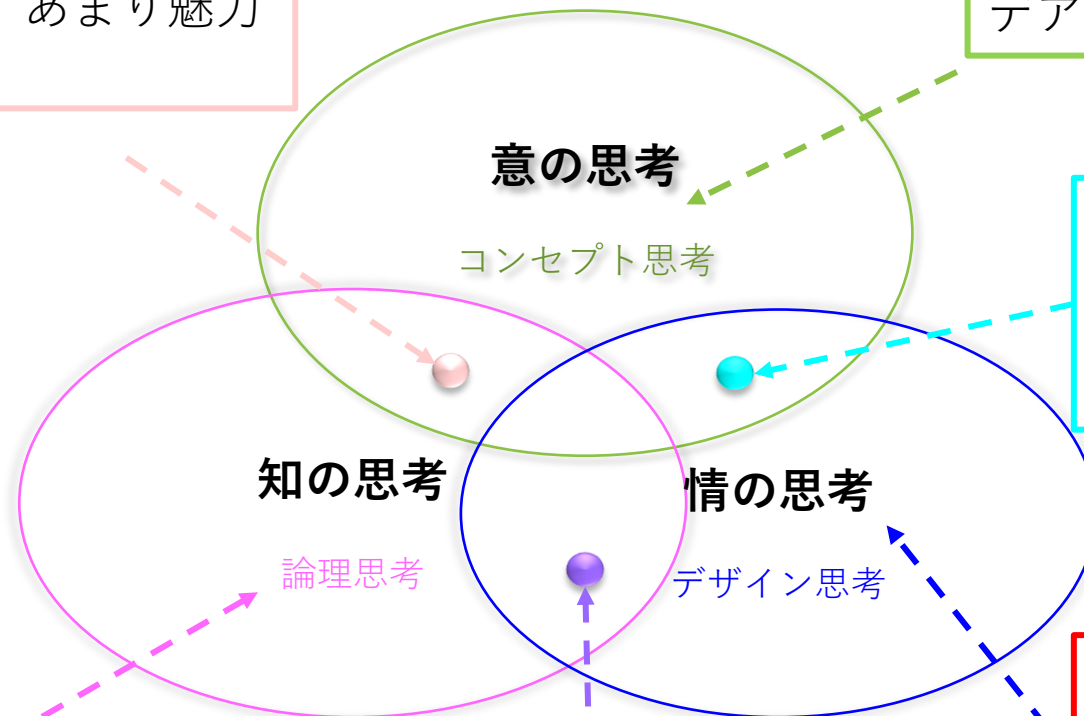
夏目漱石、『草枕』の冒頭

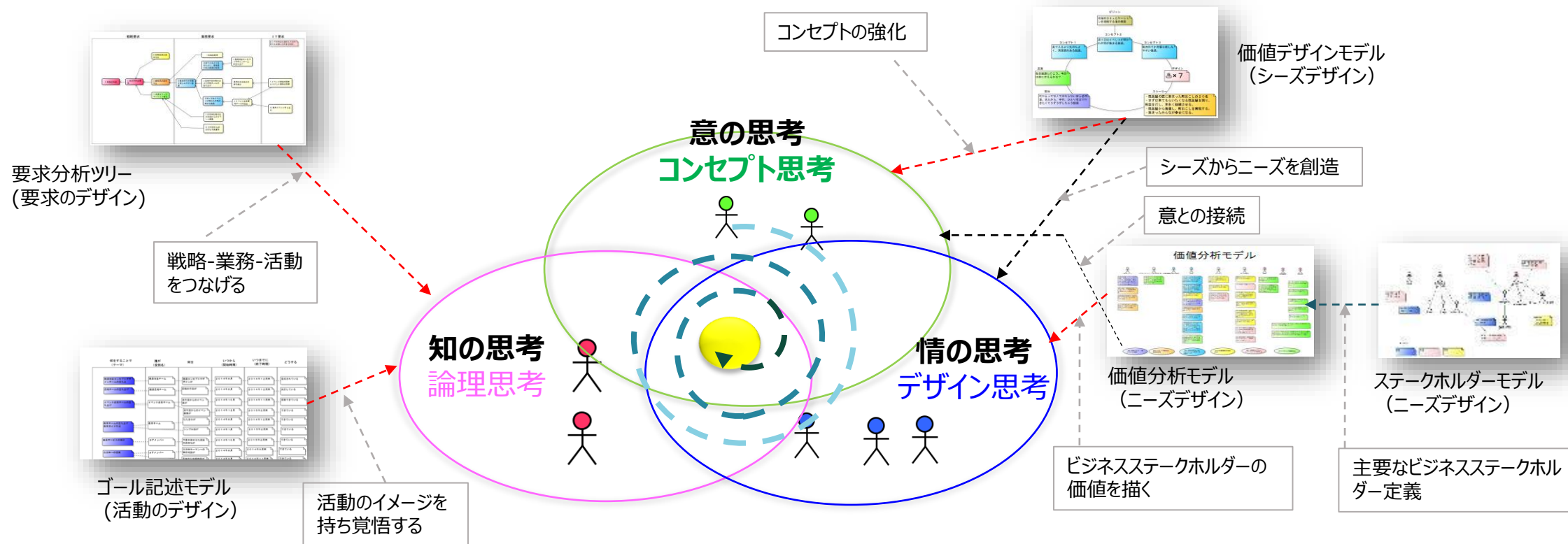
「山路（やまみち）を登りながら、こう考えた。  
**知**に働けば角が立つ、**情**に棹（さお）させば流される。**意**地を通せば窮屈だ。とにかくに人の世は住みにくい。」

論理的な展開ができるが、手段思考に、はしりがち

魅力的かつ説明的であるが、まとまりが感じられない

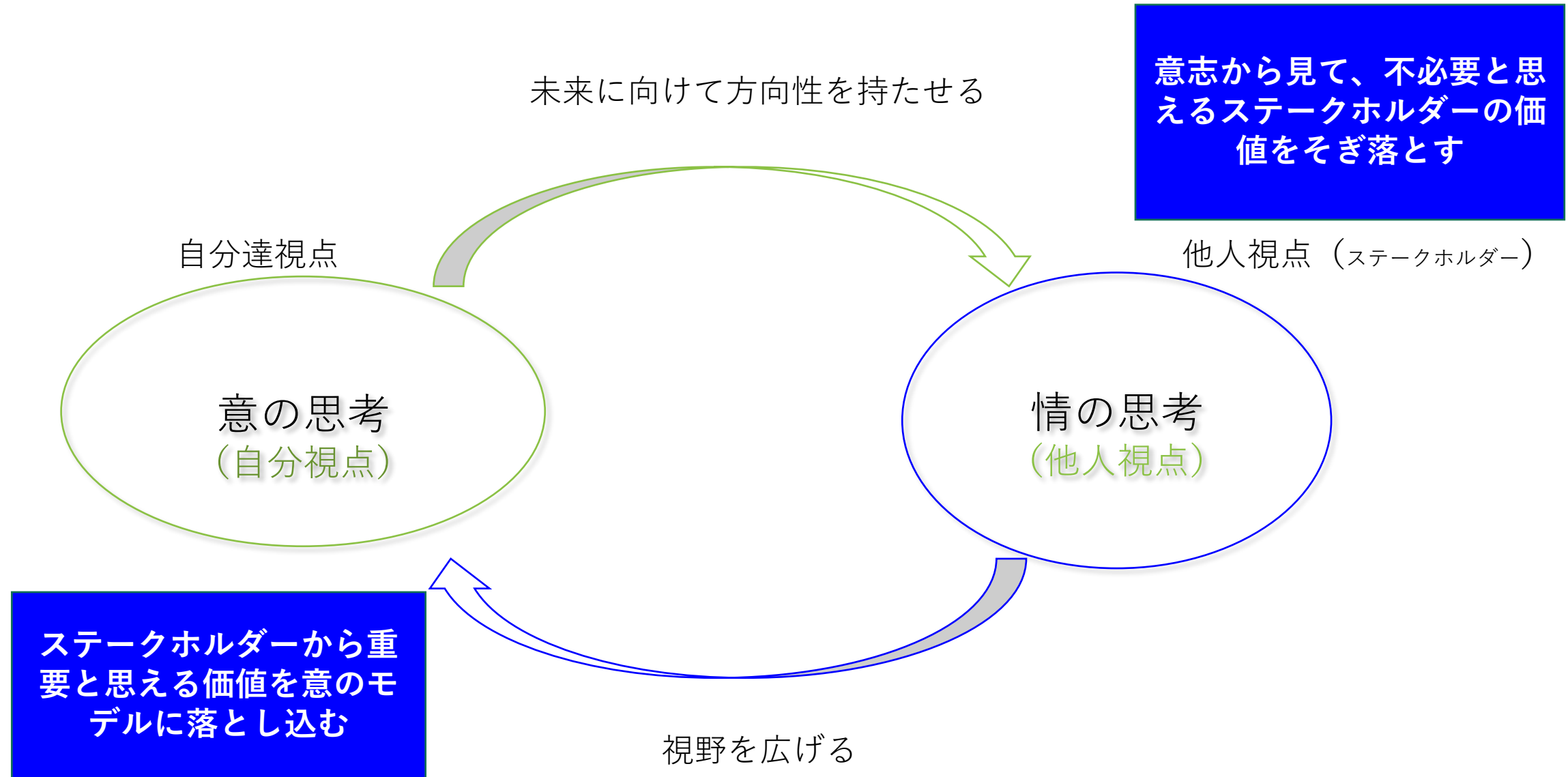
魅力的な言葉やデザインはあるが、具体的なアイデアやビジネスに落ちない



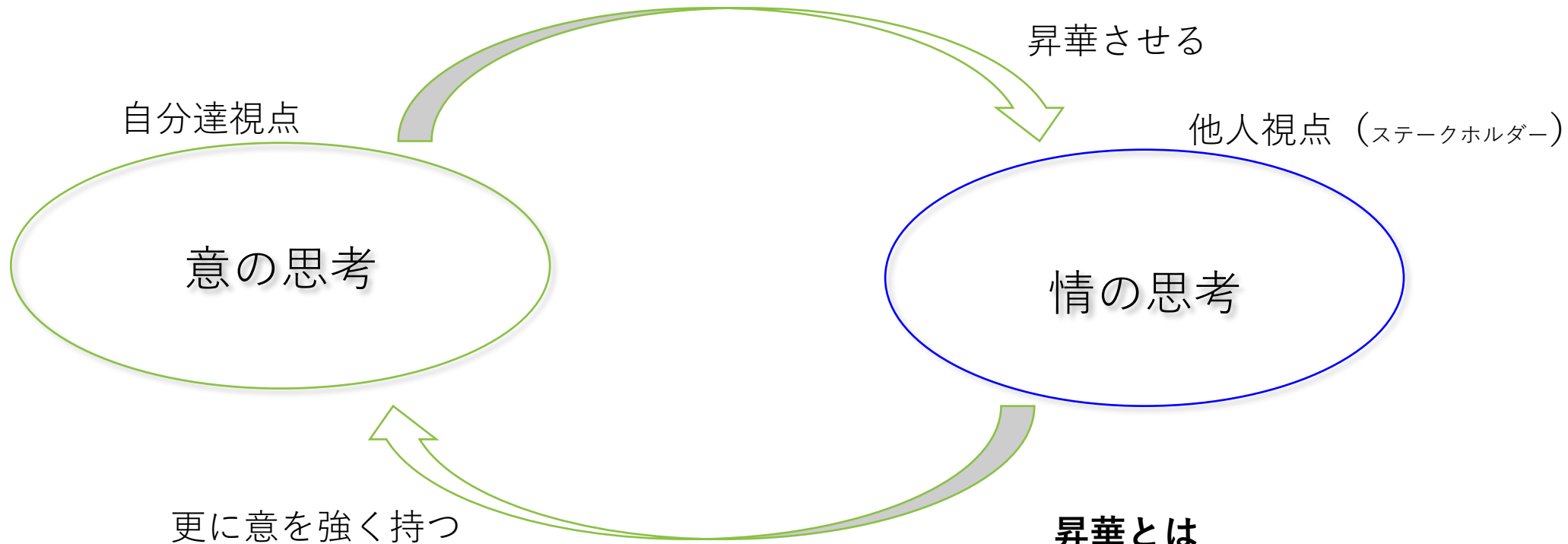


匠Methodのモデル（図）を活用する

1. 1枚の図として使っても有効なものです
2. セットにして使うと更に有効なツールとなります



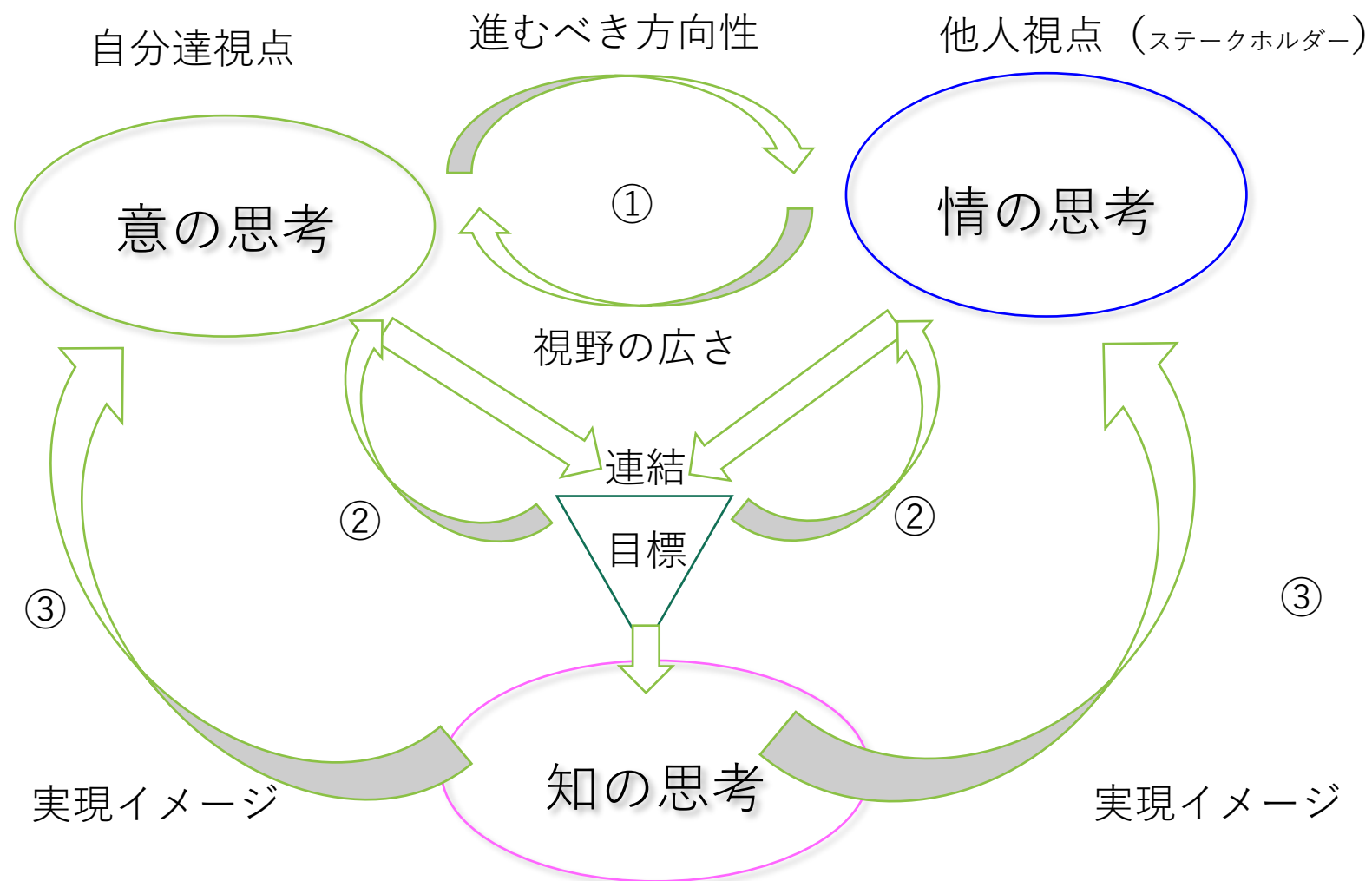
ニーズデザインにおいては、意を昇華させることでニーズとしての価値を生み出し、結果としてチームの意思をさらに強化する



## 昇華とは

社会的に実現不可能な（反社会的な）目標や葛藤、満たすことができない欲求から、別のより高度で社会に認められる目標に目を向け、その実現によって自己実現を図ろうとすること

# 「知情意のサイクル」それぞれがそれぞれを強化する



個人の暗黙知

集団の形式知

(共同化)

自分達視点

進むべき方向性

他人視点

①形式知化 (見える化)

①形式知化 (見える化)

意の思考

情の思考

④暗黙知化 (心への浸透)

④暗黙知化 (心への浸透)

視野の広さ

②

②

②

②

②

②

②

②

③

③

実現イメージ

実現イメージ

知の思考

③形式知化 (見える化)

④暗黙知化 (心への浸透)



### □解説

- ①意と情における個人の思い・考えを集合意志として見える化する（価値デザインモデルと価値分析モデル）
- ②意と情のモデル要素を連結し、知への目標とする（要求分析ツリーの戦略要求）  
また、連結の際に意と情の矛盾点・弱点を見抜き、洗練・強化する
- ③連結化された戦略要求を基に業務/IT要求や活動を論理思考により見える化する。  
また、具体的な実現イメージが見えてくるので、その実現イメージを持って意と情の洗練の為にフィードバックする。
- ④共同化による見える化された知情意それぞれを、個人の心へ浸透させる

